

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(3月5日～3月11日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。3月5日から3月11日までに6980件の検査がおこなわれました。基準を超えたものはありませんでした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(3月5日～3月11日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	71	0	—	栃木県	農産物	32	0	—
	畜産物	280	0	—		畜産物	411	0	—
	水産物	162	0	—		水産物	7	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	3	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	27	0	—		飲料水、その他	1	0	—
宮城県	農産物	58	0	—	群馬県	農産物	4	0	—
	畜産物	595	0	—		畜産物	192	0	—
	水産物	73	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	1	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	1	0	—		飲料水、その他	12	0	—
茨城県	農産物	19	0	—	千葉県	農産物	8	0	—
	畜産物	447	0	—		畜産物	109	0	—
	水産物	56	0	—		水産物	41	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	44	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	1	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 7月23日	98.3%	2.7%	0.0%
2017年 8月 6日	100%	0.0%	0.0%
2017年 8月13日	100%	0.0%	0.0%
2017年 8月27日	98.8%	1.2%	0.0%
2017年 9月 3日	97.8%	2.2%	0.0%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%

2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%
2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年12月24日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 1月21日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 1月28日	99.4%	0.6%	0.0%
2018年 2月 4日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 2月12日	97.9%	2.1%	0.0%
2018年 2月18日	100%	0.0%	0.0%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2016年6月平均	(95.0%)	(5.0%)	(0.0%)

基準を超えた沿岸魚はみつかりませんでした。これで142週連続(約3年)となります。福島県の155検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類はいわき市のイシガレイ(10 ベクレル/キログラム)、クロソイ(10 ベクレル/キログラム)、富岡町のキツネメバル(18 ベクレル/キログラム)でした。

**(2)検査について基準を超えたものについて
ありませんでした。**

(3)京都の空間線量(3月5日～3月11日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.037～0.050 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.044～0.059 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.10～0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.13～0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1くらいになってきました。しかし0.1 マイクロシーベルトを下回るところまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1)セシウム限界値超なし コープふくしま・陰膳調査、4年連続で(福島民友ニュースより)

コープふくしま(福島市)が昨年6月から今年1月に実施した、家庭で食事を1人分多く作って放射性物質を陰膳(かげぜん)方式で調査した結果を7日発表し、放射性セシウムが検出限界値(1キロ当たり1ベクレル)を超える世帯はなかった。全世帯が検出限界値未満となるのは4年連続。コープふくしま、コープあいづ、県南生協の組合員らの協力を受け100世帯(県北48、県中34、県南3、いわき5、会津10)を選んで調べた。全世帯が県産食材を利用していた。

各世帯の2日分、朝昼夕の実際の食事計6食分を均一に混ぜたものを測定。東京電力福島第1原発事故に関係なく食品中に含まれる放射性カリウムは1キログラム当たり13～52ベクレルで、2011(平成23)年度から実施しているこれまでの調査と同程度の数値だった。

これまでの調査では、11年度は100世帯中10世帯、12、13年度は200世帯中それぞれ9世帯、6世帯で検出限界値を超えたが、食品の基準値(同100ベクレル)を下回っている。コープふくしまは18年度も調査を続ける方針だ。

以上